



Title	北海道大学附属図書館報「榆蔭」
Citation	, 81, 1-21
Issue Date	1990-12-17
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/66466">http://hdl.handle.net/2115/66466</a>
Type	periodical
File Information	yuin81.pdf



[Instructions for use](#)



# 榆 蔭

北海道大学附属図書館報

## 目 次

○就任の挨拶 附属図書館事務部長 宮島太郎…… 1	○平成2年度北海道大学図書館講演会………15
○北大図書総合目録データベース100万冊突破…… 3	○故高倉名誉教授の旧蔵書を受贈………17
○本の見掛けをよむ 文学部助教授 豊島正之…… 4	○お知らせ………18
○CLARK 検索 Q & A ……11	○電算化ニュース………18
○平成2年度図書館職員等著作権実務講習会に 参加して 農学部図書閲覧掛 猿橋キヨミ………14	○会 議………20
○第33回北海道地区大学図書館職員研究会………15	○本学教官著作物………21
	○人事往来………21

## 就 任 の 挨 拶

附属図書館事務部長 宮 島 太 郎

事務部長として就任してはほぼ半年が経過した。歓迎会での近藤図書館長の檄にも似た歓迎の辞に込められていた思いも少しずつ理解できるようになった。しかし、北大のように歴史のある大図書館は一朝一夕に大転換をとげるのも難しいということもまた実感している。

とはいえ、「北海道大学図書館将来計画中間報告」(昭和62年3月20日 榆蔭 No. 72. 1987)の「6. 提言とまとめ」で述べられている諸点の多くが歴代図書館長、教養分館長、関係教官、職員等の努力により、実現されている。提言の諸点について現状を簡単に述べておきたい。

その「1) 遡及入力の実施およびデータベースの精度の向上」については平成2年9月に北大図書総合目録データベースの登録冊数は100万冊を突破している。本学の全蔵書数は約2,765,000冊(平2. 3. 31)であるから、3分の1以上がオンラインで検索可能である。あまり利用されない自然科学系の古い資料のことを考慮すると、オンラインによる検索の実効率ははるかに高いものと思われる。

遡及入力の実施は文部省からの予算配当に負うところが大きであったが、この予算も平成2年度で終了となる。平成3年度以降も遡及入力を継承できるよう学内の協力をお願いしたい。

その「2) 図書館(本館)の総合・調整機能の強化」については、経済学部図書掛との部分統合が合意され本年4月から掛員と資料の統合を開始した。その第1陣として洋雑誌13,000冊

を8月に移管した。これを機会に受入部局別(図書館・法学部)に分割して配架していたものを1本化するため、再配架を行った。和雑誌9,000冊は来年3月を予定しており、順次単行本も移管する予定である。また、時期は未確定であるが、文学部との統合についても基本的には合意に達している。作業等、職員には大きな負担となるが、よろしくご協力をお願いしたい。

なお、統合と直接関係ないが、教養分館では、以前に教官指定図書として別に配架していたものと一般の開架図書との配列の1本化を8月に行った。暑い最中の作業は大変ご苦労様でした。

その「4)LANの早期実施とその作用」については、平成4年度の運用に備えて館内に「HINES対応準備検討委員会」を設置し、利用者へのサービスの向上と図書館業務の一層の合理化について検討を行っている。HINESにより学内約2,000人とされる端末の利用者へ、CLARK蔵書検索、電子メールを利用した参考調査、図書館への推薦図書とその入荷案内、電子掲示板を利用した図書館利用案内などのサービスを提供できることになると思われる。また将来的には画像転送機能を利用した複写物のサービスなども考えられる、その成果に期待している。

その「5)図書館分館の強化と設置」については、基本方針が「理系分館検討小委員会報告」(楡蔭 No. 75. 1988)に述べられている。今後のサービスのあり方、インテリジェント化、業務、資料、定員の集中化、などの点について検討を重ね学内の合意を得ていく必要があると思われる。

近藤館長は、「某日感想」で北大附属図書館の現状、問題点、将来計画についての的確に述べている。重複するようであるが、その中の一章<図書館再開発のこと>にここで少々触れておきたい。本館の蔵書収納能力は限界に近くなんらかの対策が必要なことは館長ご指摘の通りである。葛西情報管理課課長補佐を主査とする、「図書館施設見直しプロジェクトチーム」による報告書が平成元年10月に提出されている。この報告書には利用者サービスの向上、事務の合理化、資料収納スペースの増加について、示唆に富む提案がなされている。この報告書を受けて、本年4月石黒情報サービス課長を主査とする「本館施設見直し実行案作成ワーキンググループ」が発足し、具体的な、より実施可能な案について検討を加え、10月11日に報告書が附属図書館長に提出されている。この案は、当面の緊急避難的色彩が強いが、本館の将来計画については、今から少しずつ検討しておく必要があるのではないかと考えている。書庫の問題と関連するものに重複資料等の除籍の問題がある。北大図書館における不用廃棄の基準も制定されたことであるし、早い時期に実行に移して行きたいと希望している。

楡蔭 No. 69号の「就任の挨拶」で、酒井元部長が東大総合目録作成のことに触れているのを懐かしく読んだ。大きな部屋にカード線込みの女性が大勢働いているのは壮観であった。当時は年若い女性職員が少なかったこともあり仕事にかこつけてよく駄弁りに行き雰囲気を楽しんだものである。規模は違うが、北大週及入力班がまさにそうであろうか。机上にあるものがかたやカードケースかたや端末というところに30年近い歳月の流れを感じずにはいられない。分かりきったことを言って恐縮だが、世の中いくら機械化されたといってもそれを動かすのは人間である。機械を動かす人間の質が悪くなくては、質のよい仕事はできない。私が東大図書館の洋書掛に配属されたとき、O掛長は洋書掛員たるもの少なくとも2ヶ国語はすらすら読めなくてははいけないと宣うた。英語も碌に読めない者にはショックであった。和書目録でいえば、古写本の類も読めなくてははいけないということだろうか。O掛長にお願いして時間外にグループでレクラム文庫を数冊読んだ記憶がある。O掛長は実力に裏付けられたプライドを持

てと言いたかったのだということが今では良く理解できる。電算機の出現により、図書館員の専門性とは何かとの間が発せられる今日この頃、日常業務の遂行に力を尽くす一方で、図書館員たるもの、図書館学は勿論、何でもよいある一定の分野においては研究者と普通に話ができる程度のものを蓄積しておいてほしいと最近思うようになった。日々の研鑽が将来（残念ながら）の図書館員への評価の高まり、ひいては待遇の向上にもつながるのではないかと淡い希望を抱いている。

北大図書館は1876年に最初の要綱が発表されたばかりのデューイの十進分類法（DDC）の採用に1900年に踏み切っている先進的な図書館であり、その考えは脈々として現在のCLARKにまで及んでいる。この図書館の将来に大きな期待を抱きながら就任の挨拶としたい。

## 北大図書館総合目録データベース 100万冊突破

### ——記念祝賀会開催される——

北大図書館オンラインシステム（CLARK）の北大図書館総合目録データベースへの蓄積冊数が去る9月18日に100万冊を突破しました。全国でも例を見ない急激な成長ぶりです。

これにより全蔵書の3分の1以上がオンラインで検索できるようになりました。これを記念して去る10月29日、附属図書館において記念祝賀会が行われました。

当日は伴学長、石川学生部長のほか、事務局長はじめ日頃図書館業務・週及入力事業等にご支援をいただいている方々、全学の図書担当者等100名が参加されなごやかで盛大なものとなりました。また、東京から学術情報センター副所長の大野公男先生（前館長）、北海道教育大学附属図書館長の笹嶋勇次郎先生ほか多くの来賓にもご参加いただきました。

来賓の方々からは、電算機システム導入以来5年足らずで100万冊を達成したことへのお祝いや労いの言葉をいただきました。

図書館および全学の図書職員からは、いままでのご支援へのお礼と一層データベースの充実への努力の表明、さらなるご支援の依頼が熱心に述べられました。



図書職員と懇談する伴学長

## 本の見掛けをよむ

北海道大学文学部国語学講座 助教授 豊 島 正 之

本稿は、平成2年度北海道大学図書館講演会（平成2年10月12日 北海道大学附属図書館）の講演予稿に、若干の加筆修正を施したものである。

本稿は、とかく軽んじられる「本の見掛け」が、実はその内容に深く関わる情報を担っている事を、特に紙質・判型に就て示す。

### 1 紙質と文書—正倉院の場合

平安以前の紙の用法の実例の筆頭は、いうまでもなく、正倉院古文書（六百巻）と聖語藏経巻類（七百点、五千巻、但し平安期以降のものを含む）である。概括的な整理は正倉院事務所（1970）に為されているが、それによれば、紙の格付け（prestige）と、その紙に書かれた文書の格付けとは、かなり直截な対応を見せる。

- a 特別重要な文書・経巻類 →唐よりの輸入紙  
東大寺献物帳（天平勝宝八 [756]、天平宝字二 [758]）、雑集（天平三 [731]、聖武天皇直筆）、樂毅論（天平十六 [744]、光明皇后直筆）等
- b 経巻類 →麻紙  
光明皇后願経（「五月一日経」、天平十二 [740]）、弥徳天皇願経（神護景雲二 [705]）等
- c 中央官庁用紙類 →楮紙  
中宮職解（天平十七 [745]）、民部省牒（天平神護三 [767]）等多数
- d 写経所常用紙類 →斐紙  
写経生手実類（極めて多数）
- e 各地方戸籍・計帳類 →各地方産の楮紙・斐紙  
大宝二 [702] 御野國味蜂間郡春部里戸籍（良質楮紙）、同じく大宝二 [702] 筑前國嶋郡川邊里戸籍（悪質楮紙）、天平三 [731] 越前國大税帳（良質斐紙）

e は別とすれば、文書の内容によって紙質を選択している事が明らかである。

特に、経巻類には白麻紙を用いる事が既定となっていた様で、正倉院古文書に遺る写経用紙申請書にも、通常は単に「請紙…帳」とあるのみである。

- ・天平二十 [749] 年七月十日 東大寺寫経所解 [大日本古文書 10-305]  
申奉寫大般若經所用并殘物使用事 [以下読点は全て引用者]  
大般若經一部六百巻、請紙一万三千廿帳、一万二千六百廿帳從圖書寮所請、四百帳買白紙（「紙」13020 帳の内、12620 は図書寮より、残りの 400 を「買白紙」とあるので、単に「紙」といえば「白紙」（白麻紙）の事であったものか）
- ・天平二十 [749] 五月二日 寫一切経所裝潢紙充帳 [10-268]  
七月二日納麻紙三百七十帳、又黄紙四十帳  
（単に「麻紙」といえば、黄麻紙ではなく白麻紙の意か）

特に麻紙以外のものに経巻を書写する場合には、その旨を断る様である。

- ・天平二十年 [749] 五月二日 寫一切經所裝潢紙充帳 [同上]  
納穀紙二千五百帳 大虚空藏經一百卷料, 凡紙五十帳端繼墨紙等料
- ・同六月四日  
納穀紙一万七千五百帳 最勝王經一百部料, 凡紙七百廿一帳, 五百四十六帳端繼料, 百七十五帳墨紙料

「穀紙」はカデの紙で厳密には楮紙(カウゾ)と異なるが、時に見分けにくい。

経本文ではなく経の論疏用としては、楮紙が一般的だった様で

- ・天平二十 [749] 二月六日 経疏出納帳 [3-161]  
奉請疏本 白紙无表楮荒紙者 華嚴經開脈義記一卷, 心遊法界記一卷, 玄義章一卷, 雪情澄神章一卷, 華嚴叢蕚心一卷, …

斐紙も同様の格付けで、特に高い位置にはない様である。

- ・天平勝宝三 [751] 五月三十日 寫書所解 [3-503]  
申請常疏紙料事, 請斐紙漆仟伍拾 [7050] 帳, 用紙陸仟玖伯捌拾伍 [6975] 帳, 殘漆拾伍 [75] 帳, …, 合奉寫論并疏壹伯陸拾伍 [165] 卷, 用紙陸仟玖伯捌拾伍帳, 六千五百四十九帳見所寫, 三百三十二帳所破, 九十四帳空  
[7950 = 6975 + 75, 6975 = 6549 + 332 + 94]  
(この様に紙数の計算が細かいのは、紙が貴重で且つ官給品であったからであり、又、経巻類は一行17字詰めと決っているので、必要紙数が容易に計算出来たからでもある)。

但し、特に重要な論疏類は、例外的に白/黄麻紙が使われ、ここにも楮紙・斐紙に比しての麻紙の格付けの高さが伺える。

- ・天平十九 [747] 十一月廿八日 経疏出納帳 [3-162]  
法花經吉藏師疏 [嘉祥大師撰法華義疏] 一部 十二卷漆軸白紙黄表綺緒  
(漆塗りの軸といい絹の綺織りの緒 [帯] といい、これは豪華本というべきか)

## 2 紙質と文書—平安・院政・鎌倉時代

麻紙は、製法が困難で又紙質が筆写に適さない為平安以降廃れ、その後は楮紙と斐紙が主流となる。

斐紙(「鳥の子紙」)は江戸時代には「紙王」(和漢三才図繪)とも称された程で、現代の我々から見ても、その卵(「鳥の子」)色のめでたさ、つやつやとした表面の滑らかさは、ざらざらとして生白い楮紙より数段秀ている様に見えるが、平安時代にも、斐紙が楮紙よりえらい、という格付けがあった様である。

本年夏の智證大師圓珍没後1100年記念「三井寺秘宝展」に出品された「大政官給公驗牒」(貞観八 [866] は、圓珍に真言・止観二宗の弘法(布教)権を与える承認書であるが、天皇御璽を持つ二本が現存し、両者の巻末に圓珍が自筆で次の様に書き遺している。(展覧図録 75 番)

第一本(楮紙)末尾 [図録からはカットされている、読点等引用者]

此公驗印後入手、而一兩字頗々不正、更書斐紙<sup>同</sup>?請△内印事…此本印迹分明、後本不及、請史官留之、雙存、圓珍手記

[□は虫損、△は欠字]

第二本(斐紙)末尾

貞觀八年十一月日，秘書判官時原春風宿祢与圓珍此公驗…此公驗函？□[この間大きく虫損]本，今以斐紙本為正也，珍記

即ち、

- ・第一本は、書き間違いがあるので、斐紙に書き直してもらった
- ・第二本は、斐紙で正本だが、「内印」(天皇御璽)が薄いので許可を得て楮紙の第一本も取って置く

という訳で、智証大師が「どうせ書き直すなら斐紙にしてもらおう」と考えたらしい所が面白く、当時もやはり斐紙の方が格付けが上だった事が伺える。

もっとも、純粹の楮紙はかなりざらざらして書写が困難で、又製紙上の都合からも既に奈良時代から楮紙に斐を交じて渡く事が行なわれ、現存遺例の楮紙も「斐交り楮紙」が多く、これと「楮交り斐紙」との区別は、時に無意味である。

しかしそれでも、平安・院政・鎌倉期の楮紙(斐交りの楮紙)と斐紙の使い分けは、現存遺例からもかなり明確で、

- A 詩文、歌集(卷子・冊子を問わず)、文学作品に基づく絵巻類 →斐紙  
例：群書治要(東京国立博物館蔵平安写本)[現存紙高27.1cm]、桂本万葉集[26.7]、元暦校本万葉集[25.4]、関戸本古今集[21.1]、天治本催馬樂抄[27.1]、源氏物語絵巻[22.0]、紫式部日記絵詞[20.6](cf. 鳥獸戯画甲巻、楮紙[31.0]) 紙高平均24.3cm
- B 仏典、法令、字・辞書、記録、事務文書(手紙、日記、手控え類) →楮紙  
例：空海自筆大日經開題[30.3]、新譯華嚴經音義私記[27.8]、玄應一切經音義(大治本)[28.5~30.6]、延喜式[29.6](東京国立博物館本)、篆隸萬象名義(高山寺本)[26.8]、類聚名義抄(図書寮本)[27.7]、久隔帖[29.2](最澄)、風信帖[28.8](空海)、離洛帖[30.6](佐理)、高山寺古往来[28.7]、御堂関白記(道長)[30.3~32.3]、夢記(明恵)[26.0~33.0]、第八篇は13.6]、寛平御時后宮歌合[28.8]、熊野懷紙類[29~33](以上、法量は東京国立博物館(1978)等による) 紙高平均28.8cm

となる。この斐紙・楮紙区別が、和文/平仮名(女手の世界)と漢文・訓読文・漢字仮名混じり文/片仮名(男手の世界)という文体・書体の二大ジャンル別にほぼ一致するのは、注目すべき事である。紙高の差が紙質の差に必然的に伴っている点も注意される。(A、Bの紙高平均の差は、等分散の仮定の下にt検定すれば、両側0.1%水準で有意)。但し、歌合、熊野懷紙類は和歌でありながらBに属するが、これが却って歌合、懷紙類の和歌としての特殊性を物語っている。(通常の歌集類とは異なり、歌合も熊野懷紙も、いわば一種の「記録」である)。

紀貫之自筆本「土佐日記」は、室町期まで蓮華王院(「三十三間堂」)に存在し、文暦二[1235]年に藤原定家が書写し、その書誌事項を記録している(前田家本土佐日記)のは有名である。それによると、貫之自筆原本は、

料紙白紙<不打無罅>、高一尺一寸<三分計>[31.0cm]、廣一尺七寸<二分計>紙也、廿六枚、無軸、…、有外題 土佐日記<貫之筆>、… < >は小字注

である。「白紙不打」は楮紙であろう。とすれば、原本土佐日記は、紙質・紙高共にBのジャンルに属する事が明白で、正に「日記」である。有名な冒頭の「をとこもすなる日記といふものをむなもしてみんとてするなり」は、現在では虚構性の積極的宣言と解されているが、原本を手にとれば、紙質自体がそれを強く訴えて来た事であろう。

この様に考えて来ると、蜻蛉日記、紫式部日記や枕草子等の女流日記・日録類が、どのような紙質・装幀のものに書かれていたかは非常に興味ある問題である。讃岐典侍日記の様に「日記」性の強いものは(少なくとも原資料は)楮紙卷子本に書かれていたかも知れない、等と想像したくなるが、残念乍らこれらの原本の遺存例・書誌記録は皆無である。和泉式部日記は、自作の日記文学か他作の物語か依然として不明であるが、日記ならば楮紙、物語ならば斐紙が期待され、紙質が作品の性格を教えて呉れるという事もあり得る。(勿論、著者自筆本の出現は望み得ない事であるから、これはあくまで妄想であるが)。

こうした文章のジャンルと紙質・用字との対応は、当時十分に意識されていた事である。「堤中納言物語」中の有名なパロディー「虫愛づる姫君」では、毛虫採集が唯一の趣味という女っ気皆無の姫君が、蛇の偽物を贈られ返歌をするシーンに

返事せずハおぼつかなかりなん、とて、いとこはく、すくよかなるかみにかき給、かなハ、  
またかき給ハざりければ、かたかんに

契りあらばよきごくらくにゆきあはんまつはれにくし虫のすがたは、ふくぢのそのに、  
とある (高松宮家本、濁点・読点は引用者)

というギャグがある。

これがギャグたり得るのは、「いとこはく、すくよかなるかみ」には和歌など書かない、和歌なら斐紙(「薄様」)に書く、という共通理解があるからに他ならない。因みに「こはく(剛く)すくよか」というのは、びんとした楮紙の事かと思われ、これは卷子ではなく冊子体の書、即ち仏教の論疏を書くのに最適の紙である。(経文ならば楮紙卷子本に書く)。このシーンの直前に「南無阿弥陀仏々々」と唱えさせたり(尼はともかく若い姫君の念仏シーン等源氏物語には無い)「極楽」だの「福地の園」だのと返歌がすこぶる抹香臭いのも、片仮名を用いた(論疏は普通漢字片仮名混じり文)と強調するのも、全て軌を一にした作者の工夫である。[それ故「また」は「未だ」ではなく「又」と読むべきである](尚、山崎賢三(1968)、阿部好臣(1985)参照)。

当時の読者は、ここを読む時に、次の源氏物語のシーンを、直ちに想起していたに違いない。

かの宮より侍る御ふみとて、とりいでたり、ましてこれは、とりかくすべき事はとて、  
とり給ふも、むねつふる、みちのくがみのあつこえたるに、にほひばかりはふかうしめ給  
へり、(末摘花、源氏物語大成、224-14~225-2)

又、例の近江の君の消息シーン

なこそそのせきをや、すへさせ給へらむとなん、しらねども、むさしのといへば、かしこけ  
れども、あなかしこや〜と、てむがちにて、うらには、まことや、くれにもまありこむ  
と思ふ給へたつは、いとふにはゆるにや、いでや〜あやしきは、みなせがはにを、と

て、…、おほかはみづのと、あをきしきし、ひとかさねに、いとさうがちに、いかれるて  
 の、そのすぢともみえず… (常夏, 847-12~848-3, ……は引歌)

も、或は同種の紙質ギャグかも知れない。「うらには」とあるが、薄様は「裏」は使えない。「裏」に何か書けるという事は、厚い紙だという事である。(紙の裏に何か書くというのは、源氏物語中ここだけである)。孤例の「てむがち」の語は、諸注「あなかしこや〜」の様に繰返し点が多い事としているが、「点」は訓点即ち注釈で、引歌がむやみに多い事を指すとは考えられまいか。紙の厚さといい訓点といい、まっとうなお姫様にはおよそふさわしくない事である。

以上は全て、当時の紙・文字遣いが文章のジャンルとその筆者層に強く結び付いていたからこそあり得たシーンなのである。

### 3 判型の序列と大衆化

洋紙の判型は、全紙を何回折るかによって定まる。2°(folio), 4°(quarto), 8°(octavo) の様な2の階乗の判型は、長辺を半分に分る事を繰返したもので、例えば octavo は全紙を3回(8=2<sup>3</sup>)折ったものである。困った事に「全紙」の大きさが一定していないので、2°より大きい4°, 12°よりも小さい8°等もあり得るが、判型の格付けは、あくまで折りの回数(一枚の全紙から何枚印刷面を取るか)に基づくもので、結果の寸法ではない。(それゆえ洋書の法量は寸法だけ計っても無意味なのである)。以下にいう「大きい/小さい」はこの意(折回数が少い/多い)であるので注意されたい。尚、折りの回数は、半分に折る事を繰返しているだけなら紙の漉目が縦か横かによって判定出来るが、12°, 24°の様に3の倍数のものは、どこかで三つに分るプロセスが混じる為、その順番により紙の縦横が逆になるバリエーションが生じ、一寸厄介である。(詳しくは Gaskell, 1972, p. 80~110)。

Thomas a Kempis の De imitatione Christi (「キリストに倣いて」)は、キリスト教中世修徳書中の大ベストセラーで、その判種は500以上にのぼるとも言われている。今、大英図書館所蔵のラテン語刊本に就て、刊行年代順にその判型の異なり(複本は除外)を50年毎に集計すると、次の様になる。(British Museum, 1959-より作成)

判 型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	Σ	x̄	s
	2	4	8	12	16	18	24	32	64	96			
1450—1500	1	10	19								30	2.600	0.563
1500—1550			16		6			(空欄は0)			22	3.545	0.912
1550—1600			1	5	18		1				25	4.800	0.707
1600—1650	1		5	10	6		10	14			46	5.826	2.003
1650—1700			1	20	5		6	11			43	5.535	1.791
1700—1750		2	3	20	1		15	15	1		57	5.825	1.992
1750—1800	1	1	4	14	1		10	7			38	5.316	2.042
1800—1850		1	7	8	4	5	1	19			45	5.867	2.085
1850—1900	1	1	6	1	11	1	2	26	2	1	52	6.462	2.164
	4	15	62	78	52	6	45	92	3	1	358	5.352	2.096

Σ: 点数合計    x̄: 平均値    s: 標準偏差

16世紀以前には12°より小さい判型は例を見ないが、18世紀以降は逆に4°以上の判型が殆ど出版されなくなり、かなり小さな本迄出版される様になる。96°というのは1869年に出された豆本(50mm×35mm)なのでしばらく置くとしても、年を追う毎に12°, 24°の様な小さな判型が増え、判型のばらつきは18世紀に入ってほぼ安定する(というより満遍無く散らばる)という傾向は明らかである。これは、このベストセラーの大衆化によるものといえよう。(大きな本は高い)。つまり、端的に言えば

本は、ポピュラーになる程小さくなる

のである。De imitatione Christiの判型のばらつきは、読者層の広がり証拠である。

一方「永遠のベストセラー」聖書は、大英図書館所蔵のラテン語聖書で旧約・新約両者を含む版本(Facsimileは除く)に就て見れば、次の様になる。(典拠同上)。

判 型	1	2	3	4	5	Σ	$\bar{x}$	s
	2	4	8	12	16			
1450—1500	65	9	5			79	1.241	0.560
1500—1550	55	9	34		6	104	1.971	1.178
1550—1600	28	17	33	1	4	83	2.229	1.086
1600—1650	22	10	13	11	3	59	2.373	1.299
1650—1700	11	6	6	9	2	34	2.559	1.353
1700—1750	15	7	17	3		42	2.190	1.018
1750—1800	8	6	8	1		23	2.087	0.949
1800—1850			9			9	3.000	0.000
1850—1900	1	4	3			8	2.250	0.707
1900—1950	6	1	7			14	2.071	0.997
	211	69	135	25	15	455	2.042	1.130

De imitatione Christiに比して、判型のばらつき(s: 標準偏差)がほぼ半分で、判型の中心( $\bar{x}$ )も4°以上の大きな判型にある事が一見して明らかである。特に初期の出版例(筆頭は勿論1455?刊のグーテンベルク聖書)は圧倒的にfolioが多いが、16世紀から17世紀前半に掛けては、12°, 16°という小さな判型のものも出される様になって来る。この点ではDe imitatione Christiに似ているが、その後は大きく異なり、16°は18世紀以降、12°も19世紀以降例を見ず、全て8°以上の判型に戻っている。

これには次の様な理由が考えられる。

- ① 1598年にVulgata聖書(Editio Clementina)がローマ教皇庁によって公認され、その後カトリック勢力の(宗教改革対抗手段としての)積極的頒布により広く流布した。
- ② 17世紀以降、プロテスタント・国教会により、各国語訳の聖書が積極的に流布されたので、ラテン語聖書は、相対的に民衆の馴染みの薄いものとなった。因みに、ローマ教皇庁は、1563年のトリエント公会議でミサの現地語での執行を禁止し、ラテン語を強制したが、この解除は第二バチカン公会議、実に1965年の事である(土屋吉正, 1977)。

ラテン語聖書の判型の 大→小→大 という変化は、一見「ポピュラーな本は小さい」テーゼに反する様であるが、実は、カトリックに於けるラテン語聖書の位置(価値, valeur)の疎→親→

疎をそのまま反映している訳である。

#### 4 判型の序列と効果

「ポピュラーな本は小さい」のは、何も西洋のキリスト教関係書に限った事ではなく、現に現代日本でも、最初は A5 のハードカバーで出た小説が、次に「〇〇ノベルズ」等の新書判になり、更に文庫本になるのは、珍しい事ではない。(因みに、昨今は「装幀」が「価格」にそのまま反映する事が多く、判型の序列は、実は価格の序列と化しつつある様である)。

この様な、判型はポピュラリティとの対応が確立すれば、逆に、判型が小さい本はそれだけポピュラーだと判断される事になる。典型的には、古典は小さな判型で出版される。(eg. 有朋堂文庫、日本古典全集、日本名著全集、Loeb Classical library)。

これを逆用したのが言うまでもなく岩波文庫であって、同一の小判型(菊判半裁、現在は A6)で押し通す事により、完全に「古典」というイメージを付与する事に成功した。ドイルの「シャーロックホームズの冒険」が岩波文庫に収録された時(昭和13年)の印象は、「岩波文庫もずいぶん柔らかくなったものだ」ではなく「シャーロックホームズも古典になったんだ」なのである。角川書店が「本を石鹸の様に売る」のを始めた時「文庫は古典を収めるものだ」と反発した向きが多かったのも、これを裏付ける。小さな判型は、「古典である」という積極的なメッセージを担っていた訳である。

ここ十五年程の間に、各社の文庫に同時代の作品が次々と収録される様になり、一方品切れ・絶版件数が増えて文庫収録作品の「寿命」が極端に短くなった為、残念乍らこの「古典効果」はほぼ消滅して仕舞った。「本を石鹸の様に売る」のは寧ろ然あるべしと思われるが、ただ、同時代作品には別の判型系列を与えて「前衛効果」を創出し、「古典効果」と共存させて置けば、と、出版文化の為には惜しまれる事である。

判型のメッセージは「古典効果」に限らない。例えば、イエズス会が日本で出版した「キリシタン版」の内ラテンアルファベットを用いた本は、羅葡語学書・辞書と羅語修徳書は全て 4°、他の日本語書は全て 8°であり、読者対象を判型が指示・選択している事が明白である。(この点から、「ドチリナキリシタン」の様な 8°の日本語書を日本字の読めない宣教師達の為のものとする通説には、疑問がある)。

判型が読者を選択するのは、言うまでもなく近代日本文学に於て殊に顕著である。洒落本、滑稽本、人情本は、何れも半紙本以下の判型であって、四書、史記等の和刻漢籍や「磨光韻鏡」、「古事記傳」、「詞のやちまた」等の美濃判のお堅い本とは一線を画している。(これらのお堅い本でも、明治期には半紙本判が出たものがあるが、これは「古典効果」である)。黄表紙、黒本、合巻等、何れも判型・装幀の名称がそのままジャンル名となっている点からしても、本の「見掛け」が日本文学に持つ強いメッセージは、明白と言えよう。

横山重に次の言がある。

岩波の「国書解題」の主任は、梅徳氏であった。氏は、本の内容を記述することを求めたが、わたしは、本の所在と、冊数と、寸法を記さねばならぬと主張して、梅さんと渡り合った。内容を書くことは、原本を見なくても書けるが、寸法は原本を見ない人には書けない。解題者は原本を見なければならぬ。(横山重, 1979, p. 322 [もと 1958. 4])

「国書解題」は「国書総目録」へと発展的解消を遂げ、幸いに「本の所在と、冊数と」は

記載されたが、「寸法」は見送られた。(目録採取者が原本を見ていないからである)。「国書」の後身「古典籍総合目録」も、又、関係深い国文学研究資料館「マイクロ資料目録」も、寸法や増して紙質を記す事は全く無い。以上説き来った如く、本の「見掛け」は、作成者・出版者が読者へ宛てた極めて意図的なメッセージの一つであり、本の内容に深く関連する不可欠の情報である。日本書誌の集大成に於てすら「見掛け」の軽視が未だに行なわれているのは、遺憾極まりない。

大学図書館を含む公共図書館の多くは、新刊本の箱を捨て、カバーを剥ぎ取って排架する事を習いとしているが、これ又(黄表紙の「袋」の情報量を考慮する迄もなく)数十年、数百年後の1990年代後半出版文化の研究者には、痛恨事となる事、疑問の余地が無い。

著作権法 31-2 は資料の保存の為の複製を図書館に認めているが、これに従い図書館が館蔵資料をマイクロフィルム等に収めた場合、原資料は破棄すべきであるという恐るべき議論がある。(加戸守行, 1989, p. 184)。「本の見掛け」情報に就ての理解を全く欠いたこの様な無教養な議論が罷り通る事自体悲しむべきであるが、こうした野蛮な行為が図書館によって行なわれる事の無い様、図書館勤務の愛書家諸氏の御協力を願って止まない。

#### 引用文献

- |                       |   |
|-----------------------|---|
| *阿部好臣, 1985, 86       | 引用構造の自己同一性—『虫めづる姫君』論ふたび [上下] (語文 60, 61)            |
| 加戸守行, 1989            | 全訂著作権法逐条講義 (著作権資料協会)                                |
| 正倉院事務所, 1970          | 正倉院の紙 (日本経済新聞社)                                     |
| 土屋吉正, 1977            | ミサーその意味と歴史 (あかし書房)                                  |
| 東京国立博物館他, 1990        | 智証大師一一〇〇年御遠忌記念三井寺秘宝展 展覧図録 (日本経済新聞社)                 |
| 東京国立博物館, 1978         | 特別展 日本の書 展覧図録 (東京国立博物館)                             |
| 日本古典文学会, 1983         | 堤中納言物語—高松官蔵本 (複製日本古典文学館, ほるぶ)                       |
| *山崎賢三, 1968           | 虫めづる姫君の性格について—賢人の系図 (都立杉並高校紀要 9)                    |
| 横山重, 1979             | 書物搜索 下 (角川書店)                                       |
| British Museum, 1959  | General catalogue of printed books (British Museum) |
| Gaskell, Philip, 1972 | A new introduction to bibliography (Oxford UP)      |

\* の文献は、下島朝代氏 (北海道大学大学院) の御教示によって知り得た。記して謝意を表す。

#### CLARK 検索 Q & A

Q: 「ENCYCLOPEDIA OF JAPAN」という本を探した時のことですが、最初に ENCYCLOPEDIA と入力して、つぎに JAPAN と入れたら 0 件になってしまいました。どうしてなのでしょう。

A: CLARK では検索語を打ち込むと自動的に論理積がとられるようになっていきます。ですから、打ち込んだ検索語が共に与えられていない場合は該当件数は 0 件となります。この本の場合「JAPAN」は検索語になっていますが「ENCYCLOPEDIA」の方は検索語として採られていませんでした。

Q: なぜ「ENCYCLOPEDIA」は検索語にならなかったのですか。

A: たしかに CLARK では書名の中の単語も検索語として採っていますが、「書名の中にあり、かつ主題を表す言葉」に限定しています。この種の検索語をわれわれは「重要語」と呼んでいます。つまり「History of Encyclopedia」という本の場合は「ENCYCLOPEDIA」

は「重要語」となりますが、「Encyclopedia of Japan」の場合は「Encyclopedia」は検索語とならないのです。但し、書名の冒頭の15文字、ENCYCLOPEDIA OF と重要語の JAPAN の2語の論理積ではヒットします。

この例からも分かるように CLARK ではまず最初に書名で検索してください。ヒット件数が多い場合、つぎに著者名か書名中の主題を表す語で絞り込むというふうにしたほうが良いと思います。

Q: CLARK 検索では、まず書名で検索してみてくださいとのことですが、先日「世界」という雑誌を誌名(書名)の「セカイ」で検索したら二千件以上ヒットし、それ以上絞りようがなくて困ってしまいました。

A: 最初の画面のメッセージ表示欄にも案内が出ていますが、そのような場合は検索条件を設定する必要がありますので、I キーを押して「条件検索画面」に移ってください。

ここでは検索するにあたって予め検索対象の区別を設定しておくことができます。

資料のタイプ→図書・雑誌、和書・洋書(雑誌)の区別をする。

検索語の種類→書名、著者名、重要語、分類、各種コード等の区別をする。

この例では、資料のタイプを「和雑誌」、検索語の種類を「書名」に指定して、検索語を「セカイ」と入力して検索すると、件数は該当する2件に絞られます。

ちなみに、書名と重要語が一致する場合(例えばこの「セカイ」)は、検索語の「重要語」ではなく、「書名」として与えています。

Q: 翻訳図書は原書名でも検索できるのですか。

A: 出来ます。例えば、ドストエフスキーの『罪と罰』を探そうとした場合、そのロシア語の書名をキリル文字のローマ字翻字形である PRESTUPLENIE I NAKAZANIE と入力すると、「Преступление и наказание」は勿論、「罪と罰」、そして「Crime and punishment」も同時にヒットします。

Q: 書名にハイフン「-」やアポストロフィ「'」などの記号を含む語のある資料を検索するときはどうすれば良いのですか。

A: & や%以外の記号の扱いには大きく2つのやり方があります。ひとつは記号をスペースに置き換える方法[A]で、もうひとつは記号を省いてつめる方法[B]です。

洋書についてはアポストロフィや引用符「'」や「“ ”」以外は[A]、和書については[B]の方法が一般的です。

(例)	(書名)	(入力)	
	JAPANESE-ENGLISH DICTIONARY	JAPANESE ENGLIS	[A]
	EUGENE O'NEILL'S CRITICS	EUGENE ONEILLS	[B]
	「パソコン・ワープロ」漢字辞典	パソコンワープロカンジン	[B]

ただし[A]か[B]のどちらか分からない場合は両方のやり方で検索するのが間違いのないでしょう。

Q: CLARK では長音「ー」とハイフン「-」、小さい「ッ」や大きい「ツ」などの区別をして

いるのですか。

A: 区別しています。検索のときにはそうした区別をして入力しないと探しているものがヒットしないこととなります。もっとも恥ずかしい話ですがデータの方にも長音とハイフンとが取り違えて入力されている例もあります。

Q: ISSN などのコード類でも検索できますか。

A: 出来ます。コード類の検索語はハイフンを除いた英数字の部分だけを入力することになります。例えば上の例の雑誌「世界」もカタログなどから「ISSN 0582-4532」と知っていたら、「05824532」と入力して検索するとそのものズバリがヒットします。

ISSN のほかに、ISBN や全国書誌番号などでも検索できます。

Q: 特定の”あの本”というのではなく、ある主題や件名についての図書を探すのに良い方法はありますか。

A: 北大の図書にはその内容・主題に沿って「分類記号」を付与しています。この「分類記号」も検索語としてしますので、主題から探す場合は図書の内容について付与した「分類記号」で検索してください。

例えば、「DC 16:027.7 ㍿」と入力すると 43 件ヒットし、”大学図書館の電算化に関する本”をたくさん見つけることができます。これを「重要語」で探すとすれば、「ダイガク」、「トショカン」、「デンサンカ」と打ち込んでみることとなりますがこの場合だと 2 件しかヒットしません。書名にそれらの言葉を同時に持たない「大学図書館の機械化」や「大学図書館のシステム化」が、図書の内容は合っているのに検索から漏れてしまったわけです。

Q: ところでその分類記号を知るにはどうすれば良いのですか。

A: 各図書館(室)には分類表を備えていますがこれは分厚いもので調べるのも大変です。

簡便な方法として、まず「重要語」でとりあえず検索し、その中から典型的な 1 冊を見つけ、所在情報画面の「請求記号」から分類記号を知るというのがよいと思います。

検索語としての分類記号は分類適用表(上の例で DC 16:)とそれによる分類記号(027.7)とで構成します。北大で使用している適用表は DC 16 のほかに、DC 19, NDC 8 などがあります。

Q: ㍿記号は前方一致のためとのことですが(前号)、分類記号による検索にも使用するのですね。

A: そうです。「前方一致機能」とは、検索語の末尾に「㍿」を付け、「㍿」以降を特定しない検索方法で、LIBRAR㍿とすれば、LIBRARY も LIBRARIES も LIBRARIAN も検索されます。ヒット件数が多くなってしまいますが場合によっては非常に便利です。特に分類記号の検索の場合は前方一致でした方が良いでしょう。というのは、例えば「DC 16:027.7」とすると 027.71 など、その下に細分類されているものが検索から漏れてしまうからです。

また、この機能は著者のフルネームが分からないときにも便利です。

(例) ヨシモト△㍿→「ヨシモト タカアキ」「ヨシモト バナナ」…

ただし、㍿タカアキや、ヨシ㍿トのように㍿記号を冒頭や中間に使うことはできません。

楡 蔭

Q：雑誌の所在表示画面から、その雑誌の最新号の受入状況を知る画面に移りたいのですが。

A：画面下部を見てください。「新着状況→PF 5」等の指示が出ています。このように、次の操作に迷ったら画面下のメッセージに従ってキーを操作して下さい。また、検索の終了やリストの頁めくり等の操作に関しては、PF キーの上のキーボードガイドにも指示してありますので、参考にしてください。

Q：どうしても見たい本が他の部局にあることが分かって、しかも画面に「貸出中」の表示がなかったのでわざわざ出かけたのですが、実際には貸出されていてガックリ来たことがあるのですが。

A：それはお気の毒なことをしました。「貸出中」と表示されるのはオンラインシステムで貸出処理を行っているものだけです。現在これを行っているのは附属図書館と教養分館だけです。これ以外の学部等の図書については実際に貸出されていても CLARK に表示されません。探していた本が他の部局にしかなくて借りに行く場合は、事前に問い合わせからして下さい。

## ◆研 修

### 平成 2 年度図書館職員等著作権実務講習会に参加して

農学部図書閲覧掛 猿 橋 キ ヨ ミ

7 月 25 日から 27 日まで東京大学で開催された講習会に出席しました。

著作権の講習会を受講するのは、昨年札幌で開催された東北北海道ブロック講習会について二度目です。今回は、図書館職員等のためということで、図書館資料の複製、視聴覚資料の利用、データベース、コンピュータ・プログラムの作成、利用、盲人のための録音サービス等について詳しく講義され大変参考になりました。全国から 400 名ほどの参加（北大からは他に工学部図書の山田さんと鶴沢さんも参加）があり皆の関心も高く、最終日の質問も多く出されました。

私は文献複写業務も担当しています。著作権法も少し勉強したのですが、実際に文献複写を依頼・受付するとき著作権を厳格に守っていたかどうか反省しなければと感じました。ただ、厳格に守ろうとすると不自由な思いもすることも事実ですが…

著作権法第 31 条（別表）は、図書館等における複製を認めています。発行後相当期間というのは、次号が出た前号を指し、通常の販売経路によって入手が困難になった期間をいいます。オンライン検索で所蔵がリアルタイムに検索できるようになり、今号もしくは未着の雑誌に掲載されている論文の依頼が増えてきています。著作権の趣旨からいうと、一部分の複写にするか、謝絶ということになります。

単行本の複写依頼も増えていますが、この場合はほとんど章単位の依頼となっています。しかし、章毎に執筆者が異なる場合が多く、これを一個の著作物と考えるか、考えないかで複写の範囲が変わってきます。

また、意外と大変なのが、学位論文の複写です。学位論文の複写は、ほとんどが全頁複写

です。全頁複写願は当然著者の複写許可が必要です。著者が国内にいればどうか連絡がとれますが、帰国した留学生の場合は連絡をとって複写許可をもらうのは大変です。アメリカ、カナダの学位論文の一部は販売されていますので、少々値段が高いことをのぞけば便利な制度といえます。

相互協力による円滑な文献複写業務と著作権の遵守、業務担当者としては、頭を悩ます問題です。文化庁では、複写問題と著作権の集中的権利処理機構の設立を図っています。

最後に下に挙げた別表の第二項に関する感想を記しておきたいと思います。使用の限界にきていて購入が無理なものの複本を作成した場合には、原本を廃棄する必要がない、というのは良く分かりました。しかし、単に収納場所の問題などから保存のためにマイクロ形態にコピーした場合に、原本を廃棄する必要がある、という説明には、図書館員として正直なところ違和感を感じました。

#### 別表 著作権法第三十一条

図書、記録その他の資料を公衆の利用に供することを目的とする図書館その他の施設で制令で定めるもの（以下この条において「図書館等」という。）においては、次に掲げる場合には、その営利を目的としない事業として、図書館等の図書、記録その他の資料（以下この条において「図書館資料」という。）を用いて著作物を複製することができる。

- 一 図書館等の利用者の求めに応じ、その調査研究の用に供するために、公表された著作物の一部分（発行後相当期間を経過した定期刊行物に掲載された個々の著作物にあっては、その全部）の複製物を一人につき一部提供する場合
- 二 図書館資料の保存のため必要がある場合
- 三 他の図書館等の求めに応じ、絶版その他これに準ずる理由により一般に入手することが困難な図書資料の複製物を提供する場合

### 第 33 回北海道地区大学図書館職員研究集会

本年度の研究集会は、平成 2 年 8 月 3 日（金）、北海道新聞社大通館を会場として行われ、本学からは、パネルディスカッションのパネラーとして、教養分館の新岡掛長が出席しました。

#### ○講 演

「図書館資料と著作権」 日本図書館協会 著作権問題委員会委員長 宮 坂 逸 郎

#### ○活動報告

「札幌市図書館の例から」 札幌市厚別図書館 森 昌 彦

#### ○パネルディスカッション

「AV 資料・その利用」

### 平成 2 年度北海道大学図書館講演会

この講演会は、本学の図書館業務に従事する職員に対し、基礎的知識を身につけてもらうことを目的として昭和 62 年度から毎年 1 回（1 日間）開催しているもので、本年度は、10 月 12 日（金）に行われ、学内外から約 70 名の受講者が出席しました。

9:50

開会挨拶

北海道大学附属図書館長 近 藤 潤 一

	講師紹介	北海道大学附属図書館事務部長 宮島 太郎
10:00~12:00	講演	「国文学データベースの形成と利用」 国文学研究資料館・教授 安永 尚志
12:00~13:00	休憩	
13:00~15:00	講演	「書誌共同利用機関における書誌調整の諸問題」 図書館情報大学・教授 松井 幸子
15:00~17:00	講演	「本の見掛けをよむ」 北海道大学・助教授 豊島 正之

〔講演の概要〕

「国文学データベース形成と利用」 安永 尚志

講演の内容は ①国文学研究資料館の役割 ②国文学とコンピュータ ③国文学データベース ④国文学研究支援システム ⑤原文献資料流通システム ⑥本文データベースシステム ⑦ニューメディア対応 ⑧文字セット管理システム ⑨将来構想 といった順序で進められた。

国文学における学術情報の特質として、第一に「多用性」即ち原文献資料(写本、版本)、校定定本、本文テキスト、各種目録、語彙索引、研究論文、原稿等の多様な情報形態があること、第二に「高次性」=質的な違いを区別する概念で、特に0次情報:原文献資料(原本、マイクロ資料)と1次情報:本文テキスト、研究論文、翻刻、定本等を厳密に区別していること、高次情報が必要だということ、第三番目に「多量性」=国文学情報は全て蓄積型で文献資料は江戸時代末までの写本や版本での作品点数で約100万点あると言われており、更にこれらの作品に関する論文、テキストがある。第四に「利用性」即ち単純な情報検索による利用から更に一歩進んだ研究者自身の個人の主題に基づく高次利用を計り(主観的検索手法)、各次情報を横断的に利用することができるようにするといった点をあげた。

以上のような大量かつ多様な学術情報を、コンピュータを活用して原資料システム、語彙索引システム、文献資料目録システム、研究情報システム等の個別システムの開発から出発し、これらの膨大なデータベースやシステムの蓄積を踏まえて、これらを組織化しデータベースを中心とするトータルな国文学研究支援システムを構成してきた。このシステム概念としては多様な情報の特質を正しく把握し、対応するシステムを適切に構成し、質的に異なるデータベースを一元的に管理し、多様なデータベースの横断的な利用法を計るというものである。

国文学研究では、古い日本語を扱うため、それらの文字のコントロールが大きな問題であること、また定本の作成(校定本文)では、その文を分ち書きし、その単位(語)毎に表記、読み、品詞などの属性情報を付加するものであるが、その時分ち書きや属性が研究者によって異なる場合が多く、これに対応するシステムの実現がむずかしい。(文責 押田)

「書誌共同利用機関における書誌調整の諸問題」 松井 幸子

講演の前半は、「書誌共同利用機関における書誌調整の諸問題」について説明がなされた。OCLC, RLIN, WLN, UTLAS, そして NACSIS はともに「書誌共同利用機関 (bibliographic utility)」としての共通性をもってはいるが、各機関それぞれに目的に応じた多様な活動をしている。書誌調整とは、刊行されたすべての書誌的な対象となる資料の完全な書誌レコードの作成や書誌記述の標準化などのことを意味するが、各機関の特徴 (MARC の共同利用の状態、ネ

ネットワークの規模、総合目録形成を目的とするか、独自目録基準を有するか)によってその在り方も変わってくる。

これらのことを踏まえつつ、NACSISは、ネットワークの規模から言って、専門分野の分担収集と分担入力を、つまり、どの機関がどの分野の資料を専門的に入力するか、ということ調整・検討すべき時期に来ている。

後半は、現在の研究テーマの一つである、「LC名前典拠ファイルの構造と遡及性の研究」について、その概略の説明がなされた。LC名前典拠ファイルの構造と、典拠ファイルとしての遡及性についての調査結果の簡単な報告があり、オンライン目録システムにおける、効果的な名前典拠コントロールを実現するための典拠レコードと典拠ファイルの在り方に関して話されました。松井教授は、一人の著者の名前に関するすべての情報を、原則として、1件のレコードに記録する方法を“Person-wise principle”と呼び、この原則に基づく典拠フォーマットを提唱されている。(文責 菅原)

(この概要は、当日の講演を基に編集部でまとめたものです。なお、豊島先生の講演については、同様の内容について新たに書き下ろして頂いたものを掲載できたので、割愛しました。)

#### ◆故高倉名誉教授の旧蔵書を受贈

今年6月7日に逝去された高倉新一郎名誉教授の御蔵書が、御遺族のとき夫人および御長男嗣昌氏(本学医療技術短大教授)の御好意で附属図書館に寄贈されることになり、このほどその一部約6,500冊が搬入されました。

高倉先生は『アイヌ政策史』、『北海道拓殖史』をはじめ、多数のすぐれた著書や論文によって広く知られた北海道史研究の権威で、その幅広く奥行き深い業績はこの分野では全ての人が見過すことのできない必読文献となっています。先生が本学の農学部と経済学部の教授を併任され、停年退官後も長年にわたり北海学園大学学長、北海道開拓記念館長、札幌市民生協理事長などを歴任され、多くの学会の顧問・評議員として、また北海道総合開発に関する各種委員として学術・文化・社会の各方面で活躍されたことは周知の通りであります。

高倉先生の附属図書館とのかかわりは、先生が本学農学部農業経済学科を卒業後助手および助教授の時代に本館の司書官を兼任されて以来のことで、昭和30～32年には附属図書館長を併任されました。さらに昭和10～42年ユニークな学際的研究機関であった「北方文化研究室」が本館に隣接して設置されていた時期には、高倉先生はその委員として北方資料の収集にあたり、それが今日の附属図書館北方資料室の貴重なコレクションの核となっています。このたび御遺族から御蔵書寄贈のお申し出があったのも、高倉先生と附属図書館のこのような浅からぬ因縁によるものです。

今回受贈した図書の半ばは北海道関係の資料で、それらは「北方資料室」蔵書の充実にとっても寄与するところが少なくないと期待されています。なお、高倉先生の御蔵書は他大学からも熱心な入手希望があるので、本館蔵書と重複するものについては御遺族の了解を得て分割することも検討されています。(北方資料室)

## ◆ お知らせ

### ○経済学部図書掛と部分統合されました

本年4月1日付けをもって、経済学部図書掛は附属図書館と部分統合されました。これに伴って、経済学部図書掛の定員4名が移動し、また、8月末に洋雑誌13,000冊が移管され、和雑誌・図書についても順次移管される予定です。なお、現在、経済学部図書掛では発注業務・雑誌整理業務を主に行っています。

### ○附属図書館書庫6層の混配について

かねてから懸案であった雑誌の混配が、このたび、経済学部からの移管分を含め、まず洋雑誌について行いました。書庫6層に誌名のアルファベット順に配架されております。

### ○『日本北辺関係旧記目録（北海道・樺太・千島・ロシア）』の再刊

同書は、本年3月に北海道大学附属図書館によって出版され、「楡蔭」の80号でも紹介しました。このたび、個々の研究者に対する便宜も考慮して北海道大学図書刊行会から再刊されました。内容は全く同じですが、新たにカラーの口絵4頁を含むハードカバーの美装本となっています。定価は8,755円です。

## ◆ 電算化ニュース

### ○システム部会報告

[システム管理部会]

平成2年度第3回（平成2年6月11日）

#### ・CLARKシステムの改善について

第2回システム管理部会において決定された原案が電算化委員会の承認を得て NEC に提出された。それに対する回答書が6月7日に到着したのでその検討を行った。なお、検討の結果は再度 NEC に提出された。

平成2年度第4回（平成2年10月30日）

#### ・標準パッケージについて

標準パッケージ化作業の経過及び今後のスケジュールについて報告のあと、NECからの「中間報告」に対する各運用部会の検討結果が報告された。詳細版である基本設計書完成時の対応はシステム管理部会を中心とした各システム毎の作業班を組織し検討に当ることとした。

#### ・図書管理部会（仮称）の新設について

現在の図書情報部会では受入業務関係の問題を検討するには無理があるため、来年度から要項を改正のうえ受入業務関係の部会新設を電算化委員会に提案することとした。

#### ・予算管理システムについて

図書情報部会より予算マスタメンテナンスとは別に項目の細分化を実現する予算管理システム作成について提案があり了承された。

#### ・磁気ディスクの増設について

データ量増加に対応し、磁気ディスク1台（約1G）を平成3年1月上旬に増設する予定である旨の報告があった。

・端末再配置について

遡及入力事業に関連し端末台数に余裕が生じた場合、この端末を再配置する予定で現在検討している旨の報告があった。

・その他

附属図書館 HINES (学内 LAN) 対応準備検討委員会について

[図書情報システム運用部会]

平成2年度第1回(平成2年10月18日)

- ・電算化システムの標準パッケージ案について検討され、承認された。
- ・システム管理部会委員を5名推薦した。(黒田、輪木、菊池、中條、山田)
- ・予算管理メンテナンス画面の新設について検討し、承認した。
- ・管理換や不用決定の際の CLARK システム上での取り扱いについて  
受入関係業務の部会に委ねることとした。
- ・受入業務及び目録関係業務の検討部会の分離について

受入業務の検討を強化するために、受入業務の検討部会を分離することが提案され、詳細については管理部会及び電算化委員会に一任することとした。

[雑誌情報システム運用部会]

平成2年度第2回(平成2年10月17日)

- ・標準パッケージ案について

NEC から提示された標準パッケージの骨子について検討し、了承した。北大が要求・提案していた項目のうちパッケージに盛り込まれなかった項目について、北大オプションとして要求しないこととした。

- ・システム管理部会委員を2名推薦した。(畠山、佐々木)

[サービスシステム運用部会]

平成2年度第2回(平成2年10月16日)

- ・電算化システムの標準パッケージ案について

CLARK システム標準化の要求項目リストに沿って蔵書検索サブシステム、無手順通信による蔵書検索システム、閲覧管理サブシステムの順に3大学調整後の NEC の回答について確認した。

- ・システム管理部会委員を5名推薦した。(矢野、山口、荒木、東、鵜澤)
- ・システム課より研究室貸出リストについて提案があり了承した。
- ・最近の資料サービス業務の状況について

検索手段の整備に比して、その後の利用体制の対応が遅れている。部会として検討を進めたい。

◆ 会 議

第 144 回 図書館委員会 <平成 2 年 7 月 24 日 (火)>

(議 題)

1. 平成元年度決算について
2. 平成 2 年度予算 (案) について

(報 告 事 項)

1. 平成 3 年度概算要求事項について
2. 大型コレクション (外国図書) について
3. 第 37 回国立大学図書館協議会総会について
4. 遡及入力について
5. 平成元年度 CLARK 使用状況について
6. 放送大学北海道ビデオ学習センターの図書館利用について
7. 経済学部図書掛と附属図書館との部分統合について

第 103 回教養分館委員会 <平成 2 年 7 月 25 日 (水)>

(議 題)

1. 平成 2 年度参考図書・視聴覚資料の選定について
2. 平成 2 年度教養分館図書予算について

第 37 回国立大学図書館協議会総会 <平成 2 年 6 月 28 日 (木)~29 日 (金)>

当番館：熊本大学附属図書館

(協 議 事 項)

1. 平成 2 年度事業計画について
2. 平成 2 年度予算案について
3. 国立大学図書館と大学共同利用機関等との相互利用実施要項について
4. ファクシミリによる参考調査のフォーマットについて

第 64 次国立大学附属図書館協議会 <平成 2 年 11 月 9 日 (金)>

当番館：名古屋大学附属図書館

(協 議 事 項)

1. 学内 LAN と図書館サービスについて
2. 文献複写に係る著作権問題への対応について
3. 資料の保存について—とくに酸性紙の劣化問題を中心として—
4. キャンパス情報ネットワーク (学内 LAN) を利用した図書館サービスの在り方について
5. これからの大学図書館における学習図書館機能の充実について
6. 大学図書館の評価について

第 23 回国立七大学附属図書館部課長会議 <平成 2 年 11 月 8 日 (木)>

当番館：名古屋大学附属図書館

(協 議 事 項)

1. 週 40 時間勤務制試行の実施に伴うサービスのあり方について
2. 完全週休 2 日制への移行に伴う図書館サービスの在り方について
3. ILL システムの運用時における諸問題について
4. 学内 LAN と図書館の提供する情報サービスについて

5. 外国雑誌購入契約に係る競争原理の導入について
6. 完全週休2日制(週40時間勤務制)への対応について

## ◆ 本学教官著作物

本学教官の方々から下記の著作図書を附属図書館にご寄贈いただきました。本館蔵書として永く保存し利用に供させていただきます。ありがとうございました。

### ○経済学部

浜田 康行 株式会社店頭市場 東洋経済新報社 1990

### ○歯学部

坂岡 博(編) 分子疫学 共立出版 1990

### ○応用電気研究所

永井 信夫 Linear circuits, systems and signal processing M. Dekker 1990

## ◆ 人事往来

### ○転任・配置換

榮 森 義 晴	文学部図書掛(理学部図書掛)	2. 6. 8
石 丸 恵	理学部 // (情報サービス課教養分館情報サービス掛)	//
長 野 美年子	薬学部 // (教養部用度掛)	//
伊 藤 美保子	教養部用度掛(文学部図書掛)	//
秋 月 孝 子	スラブ研究センター講師(同・事務官)	//
佐々木 光 子	// 事務掛(医学部図書整理掛)	//
金 子 和 恵	医学部図書整理掛(医療技術短期大学部学務掛)	//
鎌 田 由紀子	医療技術短期大学部学務掛(薬学部図書掛)	//
松 野 とも子	情報管理課目録情報掛(情報システム課情報処理掛)	2. 11. 1

北海道大学附属図書館報「ゆいん」 通号 81号

平成2年(1990年)12月17日発行 発行人 附属図書館事務部長 宮島 太郎

編集事務 宇野弘純・岡田 敏・山口國雄・和田章憲・菅原英一・片山俊治・

佐藤依理子・岩本 攻・関根正宏・坪田千江子・小山千恵子

発行所 北海道大学附属図書館 札幌市北区北8条西5丁目 716-2111 (2967)

印刷所 文栄堂印刷所 札幌市中央区北3条東7丁目 231-5560・5561